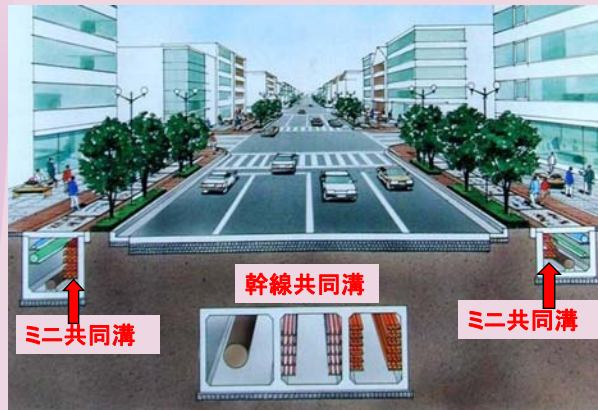


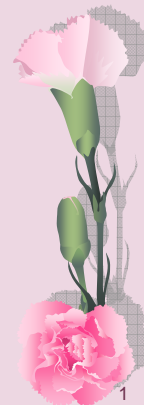
安全・安心できるまちづくり



● 整備された街並のイメージ図



ライフラインシステム普及協会



1

生活道路に歩道が無い事と電柱等は歩行者・車の障害となり交通事故要因となります。



2

車・保有台数の増加

- ・ 昭和30年代半ば、 約 300万台
- ・ 昭和40年代半ば、 約 1,800万台
- ・ 平成20年、 約 8,000万台

最近の交通事故件数

- 事故発生件数
- 死亡者数
- ・平成元年 661,363件
- ・平成10年 803,878件
- ・平成20年 765,510件
- ・平成元年11,086人
- ・平成10年 9,211人
- ・平成20年 5,155人
- 交通事故の約80%が生活道路で発生し最近歩道への乗り上げ事故も増えています。



3

「道路特定財源」は「生活道路整備」に

- 電柱など輻輳している生活道路



- 新しい計画道路イメージ図



- 朝日新聞・平成14年4月24日付



4

ライフライン設備の生い立ち

1、雨水・井戸水	水道管
2、川	下水管
3、薪・炭	ガス管
4、ランプ・水車動力	電気
5、狼煙・飛脚	電話

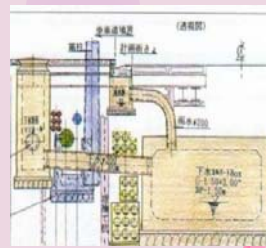
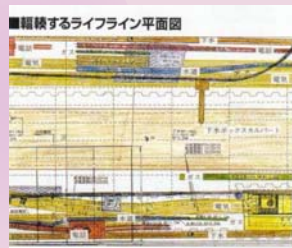
- 人々の生活に欠かせないライフライン設備は、一昔前までは自給自足で生活していました。昭和20年前後に各企業等が上記のように技術開発して、各家庭における水汲み・薪割りを解消させ、下水の普及により、トイレの水洗化・伝染病予防・電化製品・電話等を住宅・高層ビルに普及させ、日常生活・社会システムを大幅に改善・向上させました。

5

生活道路における ライフライン設備の反省点

- ライフライン設備は、約50年前から生活道路の地上・地下へ建物の建替と都市開発に併せて整備してきた結果、管理エリアも広がり・車社会から老朽化・輻輳化した設備の取替え・メンテナンスが難しく、台風・地震等の度に、ライフラインが被害を受け、人々は不便な生活を経験してきました。

- 各住宅・ビルには比較的細い、水道・下水・ガス・電気・電話の5企業設備はセットとして接続・利用される設備です。各企業独自で、地上・地下に効率的・安全に整備してきましたが、自然災害等による被害を考えると、結果的にお客さまに迷惑をかけてしまい、日常の管理・地下は既に工事できない問題があります。



6

災害時等ライフライン設備の 被害と復旧

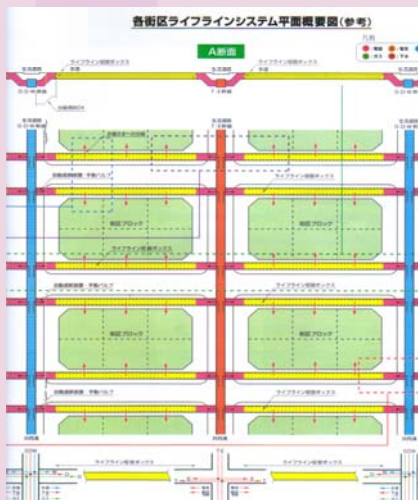
- 1、阪神・淡路大震災によるライフラインの被害・復旧
 - ・電気・電話は約1週間(電柱・倒壊1万1千本)
 - ・水道・下水・ガスは約3ヶ月
- 2、中越沖地震
 - ・電気・電話は約1週間(電柱倒壊4、755本)
 - ・水道・下水・ガスは約1ヶ月
- 3、最近、電柱・信号柱等が老朽化から倒壊し電線の
 ・高さ不足等からクレーン車が引っかけ道路歩行者が
 被害に遭っています。
 ・関西の公園において27年経過した電柱の根元が
 腐食して、倒壊事故が起きました。



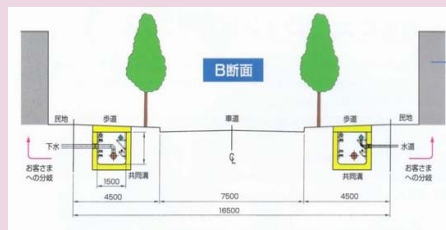
7

災害に強い街づくり

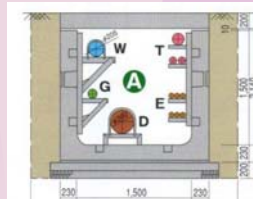
●共同溝が整備された平面図



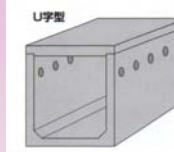
●歩道・車道を区分した生活道路断面図



●災害に強い蓋式ミニ共同溝



■ボックス部材斜視図



8

東京銀座通りの「共同溝」

サービス管共同溝

日本橋、京橋通りサービス管共同溝は、昭和47年6月、建設省の施工により、中央区日本橋室町3丁目から同区京橋3丁目までの国道両側歩道下に完成しました。長さは両側あわせて2.7キロメートルあります。

このなかには、沿道のデパートや店舗に必要な電気・電話・ガス・水道・下水道などの管路が収容されております。

この共同溝の完成によって、道路を掘返すことができなくな、各需要者へは、地下から直接供給することができます。またおのおの管路は、安全に保護され、日常の維持管理も容易に行うことができます。さらに路上の電柱、架空線、マンホールなどが不要となり街の景観もすっきりして楽しく、安心して歩ける通りとなりました。

このように共同溝は、都市道路を効率よく利用するうえに、また都市環境を改善するうえに、きわめて重要な施設といえましょう。

国土交通省 関東地方整備局
東京国道工事事務所



9

東京・銀座通りの共同溝は 環境改善・温暖化防止にも効果



●東京銀座通りの共同溝は、左・右の「歩道」に、昭和47年に建設省は「サービス管共同溝」を延長2.7km完成させ、既に35年以上経過していますが、各設備は安全に利用されています。

この共同溝の見学窓口は、三越・松屋・高島屋等の各地下鉄連絡通路に、見学窓口が有ります。是非機会がありましたら、見学・確認して見てください。

●銀座の共同溝には、水道・下水・ガス・電気・電話等が収容され、各企業の道路工事が解消し、交通渋滞がなくなり、車から排出されるCO2も削減されて、地球温暖化防止にも大きく貢献しています。

10

国土交通省・技術展示館に

国土交通省・技術展示館・展示写真



- ライフラインシステム普及協会は、平成16年より、各ライフラインを収容して災害に強く・メンテナンスに優れた、ミニ共同溝の模型を展示しています。この事業は、内需拡大・社会資本整備・持続性を有し・安定した雇用対策につながり、市民・国民の生活・社会に必要な設備であることから新しい道路工事の機会に各自主体が新しい公共事業として交付金等を基に整備する事が必要です。

11

ま と め

- 21世紀は、人間が人間らしく生活出来る都市が必要です。
- 「安全・安心できるまちづくり」の調査は、各地の老朽化した木造住宅密集地域等、昭和30年代の貧しい時代に、衣・食・住の復興を基本に築かれ、その時代から半世紀以上経過した建物は老朽化が進み建て替え時期を迎えています。しかし、地権者・住民の力だけでは再開発して次世代の子供・孫・被孫に安全・安心まちづくりの継承は困難です。
- 各地の生活道路は狭隘で生活環境・道路環境が大きく変化し、生活道路における交通事故が増加し、ライフラインも含め安全なまちづくりが必要です。調査に先立ち横浜市関係部局と事前に現地調査地点を絞り込み、その調査結果に基づき、安全・安心できるまちづくりの再開発等に関する都市計画・道路計画図・ライフライン構想図(共同溝)等、基本的な概算資料を住民・地権者・ライフライン企業に提示できる資料まで作成したいと考えています。
- 至近年度に起きると予想される首都圏直下地震・東海地震・東南海地震・南海地震等に備え、人々が安心して生活できる社会・技術を、子供・孫・曾孫等に継承する事が社会を経験してきた人々の大切な仕事と考えています。

ご清聴誠に有難う御座いました。

12